

◆ 八王子都税事務所長賞 ◆

「困った時はお互い様」

八王子市立宮上中学校 3年 名瀬 悠翔

ニュースを見ていたらガソリン価格上昇と共に補助金の話がでてきた。現在、国際的なエネルギー価格の高騰を受け生活必需品であるガソリン価格を補助金で抑えているが、もうすぐ期限を迎えるということだった。

小学生の頃、私はマレーシアに住んでいた。産油国ということもあったが、ガソリンは販売会社が違ってどこで給油しても同一価格だと両親から聞いた。今思えばこれは税金によるものだった。

ここ三年位コロナ禍により行動や経済活動が制限されてきたが、その間を支えてきたのも税金だ。医療、飲食、観光業界などへの補助金から私達個人にも配られた給付金など様々な形で使用された。マレーシアでは各個人までの給付は無かったようなので日本はとても恵まれていると思う。

さらにコロナ禍により私達も学校へ通学できず、友達との関わりも希薄になってしまった時期もあったが、学習面においては迅速に一人一台のパソコンを貸与してくれたり、先生方が授業を工夫してくださったおかげで遅れるようなことはなかった。税は私達の生活を支える命綱である。

現在コロナも収束に向かいつつあり、普段の生活を取り戻しつつある。最近では駅やショッピングモールで外国人観光客をよく見るようになった。円安による影響も大きいようだが、観光客が日本でお金を消費することで関連業界や企業の利益が上がり、そこで働く人達の収入も増え、それが消費増、税収増につながり社会へ還元される。この様に経済が循環し、きちんと納税がされていけば、私達の生活はより良いものになっていくと思う。

「困った時はお互い様」という言葉があるが、まさにこれを私達の生活において実現しているのが税だとコロナ禍を通して強く思うようになった。

まだ私は中学生であり、働いて収入を得ること、納税をすることのイメージをすることはできない。納税と聞いて思い浮かぶのは、学校で習った「国民の三大義務」のひとつであることくらいである。

しかし、学校教育を修了した先には私も実社会に出て働き、納税していくことになる。

よくニュースで税負担がきついという話を見聞きする機会が増えているが、税は私達の生活に必要な基盤を作ったり、困っている人達を助けたりするだけでなく、自分も助けられることがあることを肝に銘じておきたいと思う。

昨今税には負のイメージが付いて回っているが、物事には良い面悪い面の両方があると思う。生きていく中では今回のコロナ禍の様に全く想定外の事態に見舞われることもあるが、その時に自分を支えてくれるものの一つに税があると思うので、きちんと良い面についても意識していきたいと思う。